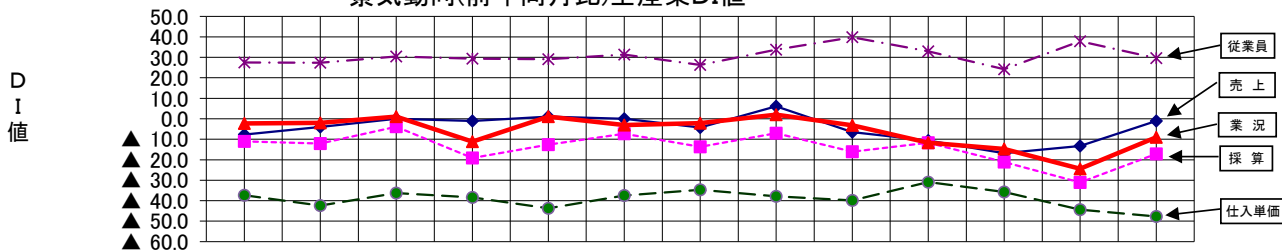


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分

【4月の概要】 売上、採算、業況など改善傾向を示すが、先行きは慎重な見通し

3月の業況判断に比べると、売上D I、採算D I、業況D Iともにマイナス幅が減少した。一方、仕入単価D Iのマイナス幅が増加しており、従業員D Iのプラス幅は減少した。全業種とも原材料など仕入単価が上昇しており、原材料コストの上昇分を価格転嫁できずに、収益を圧迫する要因となっている企業が多い。先行きについては、3月に比べ、売上D I、採算D I、業況D Iとも若干の改善が見られるが、仕入単価D Iは相変わらずマイナス幅が大きく、従業員D Iはプラス幅が増加した。原材料費、物流費などの上昇が続くとみられ、人手不足も改善の見通しが立たず、景況については慎重な見通しとなっている。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



	2018年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年4月
◆ 売上	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8	▲ 13.3	▲ 1.1
■ 採算	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1	▲ 31.1	▲ 17.1
▲ 業況	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 24.4	▲ 9.1
● 仕入単価	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8	▲ 44.4	▲ 47.7
* 従業員	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7	39.8	33.0	24.2	37.8	29.6

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上D Iは12.2ポイントのプラス、採算D Iは14.0ポイントのプラス、業況D Iも15.3ポイントプラスに転じたが、仕入単価D Iは3.3ポイントマイナス幅が増加した。従業員D Iは8.2ポイント減少した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
3月	1.1	▲ 11.1	▲ 41.1	35.6	▲ 14.4
4月	3.4	▲ 9.1	▲ 40.9	37.5	▲ 11.4

先行きは、売上D Iが2.3ポイントのプラス、採算D Iは2.0ポイントのプラスとなり、業況D Iも3.0ポイントプラスに転じた。仕入単価D Iは0.2ポイントマイナス幅が減少したが、従業員D Iは1.9ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	民間の大型工事が貢献している。ただし、原材料費は高騰しており、若手のなり手がいない。
	建設コンサルタント	小規模事業者にとっては、働き方改革を想定し対応したとしても、下請け企業の場合賃金が上げられない事が致命的。
製造業	食品	原材料の値上げが相次ぐうえに、一部材料については供給もおぼつかない状況。
	機器製造	特に技術系の採用が停滞しており、中長期的に深刻な影響が出る恐れがある。
卸売業	機械工具	仕入れ価格の上昇がしばらく続き、利益を圧迫しそうである。
	建設資材	4月に入り引き合い件数増、「荷動きの兆し」が見える。
小売業	各種商品小売	暖冬の影響により集客力の高い冬物商品が伸び悩んだところへ、4月に入って気温が上がらず、園芸関連などの販売の動きが鈍い。
サービス業	ソフトウェア	案件は多いが受けられる要員がいない。改元および消費税対応の案件集中が予想される。
	不動産賃貸業	連休や夏休みに向けて、明らかにパート・アルバイトが不足する
	宿泊業	5月のサミット開催、6月の婚シーズンを迎え、業況は好転する見込みである。但し、「働き方改革」による就業日数及び時間の短縮は人材不足により非常に厳しい。